

大学と地域が連携した地域学習イベントの実践：

山口県防府市富海地域を対象として

Collaborative education by university and regional community: Examples from

geocultural studies and events in the Tonomi region in Yamaguchi prefecture

浜橋 真理¹, 福井 清治², 出穂 稔朗^{2,3}, 森重 泰信²

Mari Hamahashi¹, Seiji Fukui², Toshiro Izuhō^{2,3}, Yasunobu Morishige²

¹山口大学 国際総合科学部, ²富海地域活性化協議会, ³富海史談会

¹Yamaguchi University Faculty of Global and Science Studies, ²Tonomi Region Community

Revitalization Committee, ³Tonomi Shidankai

要旨

In recent years, the population outflow, declining birthrate and aging population in rural and sub-urban regions in Japan are leading to shrinkage of the regional economy and to various social issues. The Tonomi region in Hofu city, Yamaguchi prefecture, known for its beautiful ocean, is one of the regions that are aiming to revitalize their communities for regional development. In order to analyze the characteristics of the region and to enhance its recognition, the Yamaguchi University Faculty of Global and Science Studies and the Tonomi Region Community Revitalization Committee collaborated on a project in 2023 which involved 1) launching a geo-cultural seminar for university students inviting stakeholders and local residents from Tonomi as speakers, 2) hosting tour events and workshops in Tonomi targeting university students to learn about the region and develop ideas, and 3) implementing a competition inviting new ideas for regional revitalization initiatives utilizing resources such as the Tonomi beach and surrounding vacant lands. Through these implementations, we aimed to create an opportunity for students to explore and learn about the various challenges and issues faced in this diminishing part of Yamaguchi, and generate effective and exciting solutions. Here, we report on the activity for this year's project.

1. はじめに

瀬戸内海西部・周防灘に面する山口県防府市大字富海（とのみ）地域は、防府市の東端に位置し、総面積 9394767.253 m²、人口 1814 人（総世帯数 830）の地域で

ある（Geoshape リポジトリ, 2020）。富海地域は西・北・東の三方を高い山（北方に大平山（標高 631 m）、西方に茶臼山（標高 107.6m）など）に囲まれ、その間に北東-南西方向に平野（完新世～更新世の堆積盆）が形成されており、ここに鮎子川と二級河川の新川（流域面積 1.2 km²、流路延長 700 m）が南方の瀬戸内海に流れ、町と田畑が分布している。

気候温暖で水利・土壌条件に恵まれる富海地域は、柑橘類の栽培や農耕作に適しているとされており、現在も天神みかんなどの栽培がなされている。かつては、江戸時代からの米生産耕地（浦開作、八崎開作）を受け継いで明治～昭和は米作中心に発展した地域であるが、戦後の高度経済成長期頃から農業従事者の減少が加速し、稲作やみかん生産は停滞していったとされる（富海史談会, 2022）。富海地域の温暖な気候は藍染にも適しているとされており、現代日本の藍染第一人者とされる日本現代工芸美術家協会評議員・飴村秀子氏によりその伝統技法が伝えられ、富海は藍染の里としても知られるようになった（富海史談会, 2022）。

富海地域には、瀬戸内海の美しい海が広がっており、海水浴場で知られる富海は、地域の重要な資源の一つである。富海地域は古くから漁業が盛んな地であり、昭和期頃まで沿岸漁業が盛んに行われていた（富海史談会, 2022）。江戸時代には富海山陽道沿いに宿場町や本陣が分布し、陸から海、海から陸へ人の往来が活発であった（富海史談会, 2022）。江戸後期の徳山藩の御用船「富海飛船（とびふね）」が幕末期には瀬戸内の飛脚船として大阪方面に行き来し、明治期には諸港をつなぐ商船（帆船）が多数往来し、富海は海上交通の

要衝であった(富海史談会, 2022)。しかし、その後、明治期に茶臼山のふもとの海岸沿いの国道の開設や、山陽鉄道(神戸～下関間)の全通に伴い、富海の海上交通体系が陸上へと変わり、富海の世界運業は衰退していったとされる(富海史談会, 2022)。また、漁業従事者は徐々に減少し、昭和60年には富海漁協は防府市水産物卸売拠点市場に統廃合された(富海史談会, 2022)。富海地域では周防灘台風(昭和17年)をはじめとして過去に複数の台風の襲来に伴う強風・高潮の被害を受けており、昭和50~60年代には富海海岸では自然災害から人々の生活を守るために、護岸工事や堤防の整備、海岸の埋め立て、防風林の整備がなされた(富海史談会, 2022)。

富海の海水浴場は、毎年7月初旬に海開きをし、8月末まで海の家が立ち並び、海水浴客で賑わいを見せる。富海の海岸が海水浴場として最初に整備されたのは、明治40年代に富海の観光レジャー開発に取り組んだ村長・小野田陸馬によるものであり、明治末期から大正期にかけては、富海海水浴場に沿って多数の旅館と別荘が立ち並び、昭和期にはその数がさらに増えたとされる(富海史談会, 2022)。戦後は海水浴のレジャー文化が盛んになり、海水浴の全盛期は昭和30~40年代だったとされているが、平成から現在にかけての近年は、徐々に海水浴を訪れる人が減り、かつての賑わいが縮小していった(富海史談会, 2022)。一方、近年は富海の細粒な砂浜を活用してビーチサッカーが盛んに行われており、ビーチサッカーチーム「プラシア山口」が活躍している。

富海には、JR山陽本線、国道2号線、旧山陽道、山陽自動車道などの主要な交通網が通っており、交通の利便性が高い地域であるといえる。しかし、現在、昭和25年頃のピーク時に4358人であった人口が若者の他県への流出や、出生率の減少によりその半数以下に減少している(富海史談会, 2022)。富海地域の歴史・環境等の資源を活かした産業の活性化及び教育・福祉事業の充実により住みよい町をつくり、若者の定住、他地域からの転入者を増やし、人口減少に歯止めをかけることを目的として、富海地域ではこれまで各種取り組み(公民館の活動、地域福祉活動、史跡の文化財登録、ビーチサッカーの振興など)が行われており、平成28年には富海地域活性化協議会が設立された。また、平成30年には小中一貫教育校の防府市立富海小中学校が設立され、教育課程特例校として英語教育に力を入れるなどの特色ある教育活動が取り組まれている。

富海は波静かな瀬戸内海に面し、1年を通して温暖な気候であり、交通の利便性も良いコンパクトシティである。しかし、このように環境・地理的優位にある富海になぜ定住者が増えないのか。近年進行している地方

の人口減少・流出、少子高齢化、地域経済の縮小は全国各地で様々な社会問題をもたらしており、富海は地方の活性化に取り組む地域の一つである。令和5年度は、山口大学国際総合科学部と富海地域活性化協議会が連携し、地域の分析と認知度向上を目的として、1)大学生を対象とした、地域住民・地域の専門家を招いた地域学習のセミナー・勉強会の開設、2)富海の資源を活かしたイベントの開催と地域おこしに関するアイデア出しのワークショップの実施、3)富海海水浴場と周辺地域の空き地、空き家を活用した、地域おこしのアイデアを募集する「地域おこしアイデアコンペティション」の開催を実行した。これらの一連の取り組みを通して、大学生が地域に潜在する課題や、様々な形の地域おこしについて学ぶ機会を創出することを目指した。本報告では、令和5年度に行ったこれらの取り組みについて活動報告を行う。

2. 先行研究

近年においては、自治体や民間団体、大学等の教育機関等が連携をして、地域の活性化やまちづくりの担い手の育成を目指した、「地域に関する学習プログラム」が多く実施されてきている(片岡ほか, 2016)(榊原ほか, 2022)。先行事例からは、地域の歴史等を学ぶことにより、地域への愛着や関心が生じ、まちづくりへの参加意識の向上に寄与し得ることが報告されている(榊原ほか, 2022)。「定住人口」や観光にきた「交流人口」に加えて、様々な形で地域と関わる地域外の人々を指す「関係人口」も、地域づくりの担い手となることが期待されている中、まずは観光客や、周辺地域に住む大学生を含む若い世代に地域へ訪れてもらい、再訪を促進する取り組みが必要であると考えられる(清水, 2021)。様々な地域で、地域おこしを目的として地域の資源を活用したイベントや地域学習プログラムが行われてきている(梶谷, 2015; 今津, 2022)、その形態はそれぞれの地域の特徴によって異なることが予想される。本研究では、防府市富海地域を対象として、地域の分析を行い、地域学習プログラムの在り方について検討する。

3. 富海地域の事例

3.1. 地域学習セミナー

「地域おこし」とは何か。一般的には、地域の経済の活性化、人々の移住・交流の推進、雇用の活性化などを通して、地域の人口の維持・増加を図るものであり、大目標から小目標に細分化され多岐にわたる形があると予想される。また、地域おこしの主体は様々であり、地域の人々、民間の団体・企業、行政組織、産・民・官・学・金の共同型のものなど、年齢層を問わず誰が行っ

でも良いものである。今回地域学習セミナーを開催するにあたり、地域で活躍する方々の実体験に基づく生の声を聴くことにより、地域を身近に感じ、地域おこしを身近なものとしてとらえ、考える学びの場を創出することを目指した。地域学習セミナーでは、富海地域の観光農園で農業に営む方、藍染体験ができる古民家カフェ・宿泊施設を営む方、富海地域の沿革と歴史を後世に伝える方を招聘し、講演を依頼した(図1,2)。

【開催日時】 令和5年6月12日(月) 18:00-20:00

【場所】 山口大学国際総合科学部 教室

【講演者】

①工藤寛之氏(とのみ観光農園)

講演タイトル:『今、農業は推しごとだ!』

②今村信一氏(藍染工房・旅籠 AIMA)

講演タイトル:『地方創生は楽しい。だけど難しい。一緒にやりたい人、この指止まれ。』

③出穂稔朗氏(富海史談会・富海地域活性化協議会)

講演タイトル:『海との共生文化』

講演では、それぞれの方々の考えや想い、事業の内容、挑戦、努力や工夫などを詳しく聴く貴重な機会となり、教室は普段の授業とは異なる雰囲気と真剣な熱気に包まれた。参加学生からの活発な質疑・意見交換も展開され、講演者と学生の交流はセミナー後も続いていた。本セミナーを通して、対話から生まれる「共感」、「人と人とのつながり」、「心を動かすもの」の重要性を改めて感じた。とくに人々の共同作業が求められる「地域おこし」には、欠かせない要素であると考えられる。



図2 セミナーの風景(撮影日:令和5年6月12日)

3.2. 地域見学イベント

「地域の資源」とは何か。地場産品、観光資源、自然、歴史・文化、人材など、地域に存在する有形・無形を問わないものであると考えられる。地域おこしには、地域の資源を活かしたものが必要であり、それらの資源は何かをまず知る必要がある。今回、地域見学イベントを開催するにあたり、まずは大学生に富海地域に来てもらい、地域の資源や環境、歴史・文化などを見学・体験し、地域について学ぶ機会を作ることを目指した。山口大学の大学生を主な対象に、富海海水浴場の海開きと大学の夏休みに合わせ、イベントを計2回企画した。それぞれの回において、(1)富海地域の史跡巡り、(2)富海地域の様々な資源を活用した取り組みの見学・体験(藍染体験、観光農園での体験、ビーチサッカー体験)、(3)地域おこしに関するアイデアの構想を練るワークショップを企画した(図3-13)。

① 第1回地域見学イベント(参加学生:6名)

【開催日時】 令和5年7月16日(日) 10:00-17:00

【場所・行程】 山口大学発着の送迎バスで移動
10:00-12:00 富海地域の見学(富海海岸、伊藤井上両公上陸の碑、船蔵通り、富海本陣、清水家住宅主屋)
12:00-15:00 藍染工房・旅籠 AIMA における藍染体験、古民家カフェにて昼食
15:00-17:00 富海公民館にて地域おこしアイデア出しワークショップ

② 第2回地域見学イベント(参加学生:20名)

【開催日時】 令和5年8月5日(土) 9:00-17:30

【場所・行程】 山口大学発着の送迎バスで移動
9:00-10:20 富海海水浴場にてビーチサッカー体験
10:20-11:30 自由時間(海水浴、海の家など)
11:30-13:30 富海地域の見学(富海海岸、伊藤井上両公上陸の碑、船蔵通り、富海本陣、清水家住宅主屋)、食堂きいさんねーにて昼食

山口大学国際総合科学部×富海地域活性化協議会 共催

地域学習セミナー開催!

～防府市富海の地域おこし事業
『誰もいない海と地域の復活プロジェクト』～
Tomonari Region Project: Revitalizing a Community with Beautiful Ocean

18:00-20:00
6/12(月) At 山口大学国際総合科学部棟
3階303教室

内容

<p>講演① 工藤寛之氏 (とのみ観光農園)</p> <p>『今、農業は推しごとだ!』</p>	<p>講演② 今村信一氏 (藍染工房・旅籠AIMA)</p> <p>『地方創生は楽しい。だけど難しい。一緒にやりたい人、この指止まれ。』</p>	<p>講演③ 出穂稔朗氏 (富海史談会・富海地域活性化協議会)</p> <p>『海との共生文化』</p>
---	--	--

司会進行: 浜橋真理(国際総合科学部)・由浩範氏(富海小中学校長)

開催概要・趣旨

山口県防府市富海(とのみ)では、自然豊かな海の資源を活かした観光・事業プランを提案・実現することにより、富海の良さを多くの人に知ってもらい、定住者を増加させ、地域の活性化につなげることを目指しています。本事業では、富海海水浴場と周辺地域の空き地、空き室を活用し、自然・遊び・食・宿泊が体験できるような観光地としての整備、自然と地域との調和が可能なビジネスの創出などを目標とした新規のアイデアを募集するコンペティションを大学生と地域活性化協議会が協働して企画・運営しています。

コンペティションの開催に先立って、地域おこしや、地域に潜在する課題などの諸テーマについて一緒に考えませんか? 富海に住む地域の専門家を招いた、地域学習セミナー・講座を開催いたします。
皆さまのご参加をお待ちしています!

★富海の資源を活かしたイベント・ワークショップを開催予定です!(今夏7月・8月)
★コンペティションにぜひご応募ください!(1次選考:9月、2次選考:10月予定)

お問い合わせ先: 山口大学国際総合科学部 富海地域活性化プロジェクトチーム
〒758-8541 山口県山口市吉田1677-1

*本事業は「令和5年度 地方創生に向けて “がんばる地域” 応援事業助成金」の支援を受けています。

図1 セミナーチラシ

13:30-15:30 とのみ観光農園における果物収穫(ブドウ、ブルーベリー) 体験、アイスクリーム作り

15:30-17:30 富海公民館にて地域おこしアイデア出しワークショップ

それぞれのイベントでは、地域の方々に多大な尽力とおもてなしをいただいた。富海地域の見学では、富海史談会の方々による案内をいただき、歴史・史跡の詳細な紹介をいただいた(図 5, 6, 10)。富海地域には様々な時代の歴史・文化が色濃く残っており、旧山陽道沿いには「富海本陣跡」や、登録有形文化財の「富海清水家主屋」(つし二階建棧瓦葺の町家)、旧山陽道の南方にかつて連なっていた「大和屋政助船蔵」をはじめとする船蔵、石段(雁木)を備えた住宅が連なる「船蔵通り」が現在も保存されている。また、江戸から幕末にかけて飛船が往来した富海では、伊藤博文・井上馨・高杉晋作をはじめとする著名な志士たちが行き来し、富海の人々の支援のもと滞在をした場所をたどることができる(飛船間屋入本屋磯七の宅、伊藤・井上両公上陸の碑など)。

第1回イベントでは、藍染工房・旅籠 AIMA の今村信一氏らに藍染体験のご指導いただきながら、古くから日本に伝わる藍染の伝統について学び、日常使いができる靴下の藍染を行った(図 7, 8)。第2回イベントでは、ビーチサッカーチーム「プラシア山口」のコーチ・選手の方々に直接指導をいただきながら、富海のきめ細かな砂浜でビーチサッカーを体験することができた(図 9)。とのみ観光農園における果物収穫体験・アイスクリーム作りでは工藤寛之氏らに指導をいただきながら、富海の風土・気候を生かした農業体験が行われた(図 11)。

海開きをして海の家が立ち並ぶ富海海水浴場は他の季節と比べて大変活気があり、その中で開催した本イベントは参加学生も楽しんでもらったのではないかなと思う。富海地域を直接見学し、地域の方々と交流し、地域の方々の熱意に触れることによって、ここでも「人と人とのつながり」が生まれ、地域のために何かをしたいという気持ちが芽生えたのではないかと感じる。

各イベントの最後に実施した富海公民館でのワークショップでは、学生主導でブレインストーミングが行われ、意見出しが活発に行われた。主題は、富海地域の良いところ、抱えている課題、地域に必要なと感じるもの・取り組みなどの諸テーマについてであった。意見を付箋等書き込み、集まった考えを模造紙上で分析し、議論が展開された(図 12, 13)。

富海地域活性化協議会×山口大学国際総合科学部
Tonomi Region Project: Revitalizing a Community with Beautiful Ocean
富海の地域見学開催!
~防府市富海の地域おこし事業『誰もいない海と地域の復活プロジェクト』~

第1回: 7/16(日)
場所: 藍染工房・旅籠AIMA
富海海水浴場の海開き: 7月の第一週~8月末

第2回: 8/5(土)
場所: とのみ観光農園

一緒に地域おこしや、地域に潜在する課題などの諸テーマについて考えませんか?
コンペティションの開催に先立って、アイデア出しのワークショップと職業体験を企画しています!
これらのイベントを通じて皆さんのアイデアの創出を支援します!

参加申込はこちらから:
各回参加費無料(昼食込、交通費・バス送迎込)

本事業では、富海海水浴場と周辺地域の空き地、空き家を活用し、自然・遊び・食・田舎が体験できるような観光地としての整備、自然と地域との調和が可能なビジネスの創出を目指した新規のアイデアを募集するコンペティションを山口大学と地域活性化協議会が協働して企画・運営しています。

皆様のご参加をお待ちしています!

*本事業は「令和5年度 地方創生に向けて“がんばる地域”応援事業助成金」の支援を受けています。

図3 地域見学イベントチラシ



図4 海開きをした富海海水浴場(撮影日: 令和5年8月5日)



図5 海の家での座学(地域の沿革・歴史について)(撮影日: 令和5年8月5日)



図6 地域見学風景（第1回イベント）（撮影日：令和5年7月16日）



図10 地域見学風景（第2回イベント）（撮影日：令和5年8月5日）



図7 藍染め体験の様子（第1回イベント）（撮影日：令和5年7月16日）



図11 ブルーベリー狩り体験（第2回イベント）（撮影日：令和5年8月5日）



図8 藍染めをした靴下（AIMAにて）（撮影日：令和5年7月16日）



図12 アイデア出しワークショップの様子（第1回イベント）（撮影日：令和5年7月16日）



図9 富海の砂浜でのビーチサッカー体験（第2回イベント）（撮影日：令和5年8月5日）



図13 アイデア出しワークショップの様子(第2回イベント)(撮影日:令和5年8月5日)

3.3. 地域おこしアイデアコンペティション

地域学習セミナーと地域見学イベントを経て、大学生に富海の歴史や地域おこし事業者の取り組みに直接触れてもらうことができた。また、アイデア出しワークショップでは、富海地域の分析や、富海に望むもの、空き地や海水浴場を活用した施設の提案など、富海の地域おこしについて多くの意見・アイデアが議論された。これらを踏まえ、本年度の取り組みの集大成として開催された、「富海の地域おこしアイデアコンペティション」では、富海地域活性化協議会と山口大学国際総合科学部の共催により、以下のテーマ・内容でアイデアの提案を広く募集した(図14)。本コンペティションは、富海地域活性化協議会の活動指針に基づき、富海地域の自然・遊び・食・田舎が体験できるような観光地としての整備、自然と地域との調和が可能なビジネスの創出や企業等の誘致などを目指す優れたアイデアの募集が主目的であった。

○募集テーマ:山口県防府市富海海水浴場(西の浜)に面した空き地(1511㎡/458坪)の活用や、富海海水浴場の利便性向上、若い世代が集う1年を通して食べて遊べて楽しい富海ビーチにするためのイベントの提案、施設の整備、ビジネス創出など新規アイデア

○応募資格:地方創生(地域の発展や活性化、地域の資源の活用など)に意欲・関心のある方、年齢は不問、複数提出可

○一次選考:アイデア応募作品を書類選考し、二次選考作品とする。アイデアを文書に記述してもらい、令和5年11月末を応募締切とした。

○二次選考:一次選考を通過した作品のアイデア発表会を行い、優秀作品を審査・選考する。アイデア発表会は令和5年12月17日(日)9:00-12:00に富海小中学校体育館で行われた。

コンペティションの開催についてはウェブページを

公開し、山口大学、山口県立大学、周南公立大学、防府商工高等学校、徳山工業高等専門学校、山口短期大学をはじめとする各学校にコンペティションに関する周知依頼(チラシ・ポスターの掲示等)を行い、富海地域や防府市役所などの各場所におけるポスターの掲示も行われた。

募集の結果、応募作品総数は96作品にわたり(表1)、防府商工高等学校より50作品、一般の方より22作品、山口大学より17作品、山口県立大学より3作品、徳山工業高等専門学校より1作品、周南公立大学より1作品、金沢大学より1作品、九州大学より1作品の応募があった。

コンペティションの選考は、アイデアの新規性・独自性・創造性、アイデアの実現可能性(実現性・持続性・発展性)、近隣地域環境・住民との調和、地域の資源の活用や、地域の発展・活性化との関係性を基準に評価が行われた。一次選考では、5名の審査委員(山口大学地域未来創生センター・山口大学国際総合科学部・富海地域活性化協議会)による書類審査が山口大学で行われ、応募総数96作品の中から15作品が選出され、二次選考では8名の審査委員(山口大学地域未来創生センター・富海地域活性化協議会・富海地区社会福祉協議会・富海地域自治会連合会・防府市議会、防府観光コンベンション協会)により一次選考を通過した15作品のアイデア発表審査が富海小中学校体育館で行われた(図15,16)。優秀作品の受賞者には賞金と山口県産の特産品が授与され、コンペ参加者には富海地域の特産品の参加賞が授与された。

本コンペティションで寄せられたアイデアは多岐にわたり、富海地域に新たに提案するものとして、イベント・体験型の企画(29%)、複合施設(食・宿泊・店・暮らし・娯楽等)(22%)、カフェ・飲食店(16%)、制作物や新規コンセプト(16%)、宿泊(10%)、販売店(7%)に関するものなど、多彩で独創的な構想が集まった(図17,表1)。富海地域の資源を活かした体験型のイベント・アクティビティ(マリンスポーツ、藍染、果物狩り等)に関する提案が最も多いことから、富海には魅力度が高い資源が豊富に存在することと、人々のアクティビティに対するニーズが高いことが示唆される。また、単独の店や施設よりも、複数のお店や施設が一つの場所に集まる複合施設のほうが人々の求めるものとして多数を占めており、地域に人流を増やす上で有用なヒントが得られる結果となった。

なお、コンペティションの開催の様子はKRY山口放送ニュースライブ(12月19日(火)18:15-19:00)で特集され、本年度の取り組みや富海地域について多くの人々に知ってもらうことができた。

図14 アイデア募集チラシ



図15 コンペティション(アイデア発表会)の様子(撮影日: 令和5年12月17日)



図16 コンペティション(アイデア発表会)の様子(撮影日: 令和5年12月17日)

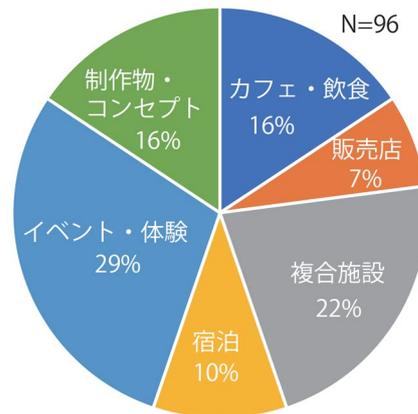


図17 提案アイデアのテーマ分類

4. まとめと今後の展望

令和5年度は防府市富海地域を対象として、1) 地域住民・地域の専門家を招いた地域学習のセミナー・勉強会、2) 富海の資源を活かした地域見学イベントの開催と地域おこしに関するアイデア出しのワークショップ、3) 富海海水浴場と周辺地域の空き地、空き家を活用した、地域おこしのアイデアを募集する「地域おこしアイデアコンペティション」の3つの取り組み・事業を実施した。

地域学習セミナーと地域見学イベントでは、富海地域の歴史・文化について詳しく学ぶことができ、地域の人々との交流の機会が非常に重要な要素であった。地域おこしに取り組まれている事業者の方々の日々の努力、地域の歴史・文化の伝承に努められている地域住民の方々の熱い想いは、富海の良さそのものであり、「人と人とのつながり」こそが、地域内外の人々が求めているものであり、重要な地域の資源であると考えられる。富海地域は、歴史・文化が色濃く残り、海・山ともに自然が豊かな場所であり、地域の資源は豊富に存在するといえる。例えば、歴史・文化の点においては、富海の地域見学は学校の教育プログラムの一環として成立し得るだろう。また、富海海水浴場や、琴音の滝や大平山まで続く山側のハイキングコースは、スポーツや自然鑑賞の場としても大変有意義である。地域の人々と交流し、富海地域に思い出が残る人々が増えて、「また来たい」と思うリピーターが増えることが期待できる。そのためには、まずは富海地域に足を運んでもらい、潜在する富海の様々な資源・良さを知らなければならない。富海の地域おこしを振興するためには、富海地域の「認知度向上」がまず重要であろう。

本年度の各イベントの最大の課題は集客方法であった。イベントの宣伝はチラシ・ポスターやメールが主であったが、今後はSNSの利用や、関心のある団体の誘致、既存の教育プログラムとの連携など、より多くの人々に参加してもらえるように様々な工夫が必要で

あると考える。また、毎回のイベントで新しく参加者を募るとともに、各イベントが単体で終了せず、また継続して参加してもらえるような仕掛けを作ることも大きな課題であった。

本年度行った事業により、富海地域を対象とした地域おこしのアイデアが多く生まれた。各種イベントをとおして大学生をはじめとする若い世代が地域について知り、訪れ、交流する機会の創出につながり、成果が得られた。地域の方々を講師とするセミナーや、実際に地域に赴いて実施したアイデア出しワークショップでは、普段の教室とは異なる環境下で、学生たちが主体的に取り組み、大きな教育的意義があった。また、富海地域住民の間でも活性化への関心が高まったことも成果のひとつである。コンペティションに参加された高校や大学（徳山工業高等専門学校、防府商工高等学校、山口県立大学など）との新たなつながりが生まれたことも重要な成果であった。本年度実施した一連のイベントとその宣伝、そして KRY 山口放送による特集を通じて、身近なところから富海地域の認知度が少しずつ広がったのではないかと考える。今後も富海の美しい自然や文化、人々の温かさに触れられる人が増えていくことを願う。

今後、コンペティションで提案されたアイデアを詳細に分析し、実現に向けて協議が進められる予定である。令和 5 年度は山口大学国際総合科学部と富海地域活性化協議会はイベント単位での関わりであったが、本年度の取り組みを経て、令和 6 年度からは体系的な教育プログラムのパートナーとして連携し、国際総合科学部 4 年生の卒業研究にあたる「課題解決型研究 (PBL)」が新たに始動する。

本年度の取り組みを通して、富海地域の事例から導きだされた「地域学習プログラムの在り方」として、参加学生と地域の人々との交流の機会が最も重要な要素であったことから、地域特有の資源を活用しつつ、地域内外の人々のつながり・交流を促進する「人ありき」のプログラムが、地域への愛着・関心を増す上で最も効果的であると考えられる。

【謝辞】

本活動は一般財団法人・地域活性化センター助成金事業「地方創生に向けて”がんばる地域”応援事業」(令和 5 年度) の支援を受けて実施させていただいた。本プロジェクトの企画・構想、チラシ・ホームページ作成等に尽力いただいた山口大学国際総合科学部の笹永真由氏、増田悠希氏、櫻井つぐみ氏、藤本真央氏、田中奈々氏、高あずき氏、Xu Lin 氏、京面裕也氏に深い感謝の意を表す。地域学習セミナーにおいて講師を務めてくださった今村信一氏、工藤寛之氏、出穂稔朗氏、各

イベントにおいて支援・協力をいただいた富海地域の方々、富海地域活性化協議会と富海史談会の方々、ブラシア山口の方々、富海小中学校の方々、食堂きいさんねーの方々、AIMA のの方々、とのみ観光農園の方々、イベント当日の準備・運営に携わった国際総合科学部の学生諸君に心より感謝を申し上げる。コンペティションの審査員を務めていただいた五島淑子氏・田中久美子氏（山口大学地域未来創生センター）、森重泰信氏（富海地域活性化協議会）、津秋敬信氏（富海地区社会福祉協議会）、椎木幸成氏（富海地域自治会連合会）、宇多村史朗氏（防府市議会）、中谷泰氏・中司達美氏（防府観光コンベンション協会）に感謝の意を申し上げる。

【引用・参考文献】

- 今津 海, 2022, 「岡山県倉敷市真備町岡田地区における地域主体型イベントの取り組み「金田一耕助 春の誕生会 in 桜」を事例として」, 『都市計画報告集』, vol.21, no.1, pp. 24-27
- 梶谷克彦, 2015, 「日本における地域イベントの時代変容に関する研究」, 『日本感性工学会論文誌』, vol.14, no.3, pp.433-442
- 片岡 由香・羽鳥 剛史・羽藤 英二, 2016, 「まちづくり実践学習のプログラム化と地域連携への展開可能性に関する研究」, 『土木学会論文集 D3 (土木計画学)』, Vol.72, No.5, pp. I_523-I_532
- 榊原 弘之・高木 将志, 2022, 「地方大学における学生のまちづくり参加意識の形成要因に関する研究 —大学所在地域に関する学習経験に着目して—」, 『都市計画論文集』, vol.57, no.1, pp. 90-97
- Geoshape リポジトリ, 2020, 『山口県防府市 国勢調査町丁・字等別境界データセット』 <https://geoshape.ex.nii.ac.jp/ka/resource/35206.html> (2024 年 1 月 5 日閲覧)
- 清水 苗穂子, 2021, 「観光地域づくりにおける関係人口創出を目指した取り組み—地域イベントに注目して—」, 『阪南論集. 人文自然科学編』, vol. 56, no.2, pp.67-77
- 富海史談会, 2022 年 3 月, 『富海史談会』, 富海史談会

表1 コンペティションに応募された企画タイトル一覧

提案企画名	受賞
日本一の17才を決める「輝け！17歳日本選手権」	1位
富海花火大会	2位
誰もが来なくなる海と地域へ～富海をバズらせよう～	3位
みんなで育てる喫茶店～雑貨とともに～	審査員特別賞
富海地域の観光・活性拠点づくり～富海を知ろう。活性化への第一歩。～	審査員特別賞
人を繋ぐ、富海を繋ぐ、未来を繋ぐ「つながり公園」	佳作1
「すこやか」で「はつらつ」な富海	佳作2
富海を知って味わう広場	佳作3
誰もいない海～二人の愛のために～	佳作4
スポーツウィークTonomi	佳作5
マリンスポーツで誰かがいる海へ	佳作6
飛び船レース大会	佳作7
海辺にキッチンカーを呼びたい。	佳作8
楽しい！美味しい！富海ビーチ！	佳作9
空き地を利用した持続可能なテントサウナ	佳作10
藍と富海市（いち）	
海辺の楽園：空き地を海辺のキャンプオアシスに変える！！	
「白砂〇〇」プロジェクト～富海の砂浜との出逢いを生むカプセルトイレ	
今日、私は、富海で、インディゴホテルに泊まります	
万能型施設で富海を活性化！	
アースバッグハウスで町おこし	
静かな海、富海でほのぼのとしたデトックス空間をめざす。	
「海辺」ワークプロジェクト	
一年を通して「魅せる海」	
富海海水浴場をフル活用したキャンプ場と、地域住民のための商店の建設	
トノミツーリズム	
丸1日で味わう富海の魅力	
海で遊び尽くせ	
角島に負けない！美しい海、富海！！	
富海ホテル（現代版宿場町）	
富海で季節を感じる	
農業・漁業を活かした長期滞在型観光～農泊体験～	
小メバル公園で遊んで学んで備えよう	
サイクルツーリズムの促進を目的とした拠点づくり	
富海トリアスロンプロジェクト	
富海にランドマークを育てたい	
空き家・空き地を活用した子ども食堂	
デジタルで富海クス	
子供のあそべるスペースを作る	
富海魅力発信	
みんなの安らぎ場	
はまやき屋 富海	
目指そう 富海の活性化	
カフェで若者が集う街へ	
海水浴場に潤いを	
魅力的な街でおしゃれな休日を過ごしてもらおう！	
富海でスポーツをしよう	
富海太陽と月の家	

提案企画名（つづき）
とのみのうみ
海を感じるおしゃれカフェ+アート体験のできる施設
田舎（富海）暮らし体験
ぶどう料理の楽しさを知ろう！！
富海魅力発見巡り
顧客に充実した一日を富海で！
富海を遊び・デートスポットとして有名にする
山口県の特産品を中心に楽しめる海の家
とのみを一年中にぎわう海に
マリンレジャー・スポーツで富海を元気に
マリンスポーツ体験とBBQを楽しもう！
富海に観光の拠点を作り、人々の流れをつくる
富海銭湯
富海をアクティブな街へ
とのみ（富海の魅力を伝える）
とのみの家
みんなで行こう富海海水浴場へ ～海水浴場に求められるユニバーサルデザイン～
とのみの海
富海に新たな風を・・・
海の家ホテル
富海交流活動
富海海水浴場（キャンプ場）
富海に今人気の韓国カフェを作ろう！
富海ふれあい・管理センター
人の波を富海の町に
富海マルシェ
富海コスプレイベント
みんなの心の寄りどころ
富海花火大会
富海の魅力を知ることができるカフェ
海の見えるカフェ
富海で心も身体も富みまくり・整いまくり
誰もいない海を防府の観光名所に
To the original ocean～海のあるべき姿とは～
富海スタンプラリーくじ、富海のイベント開催
富海でスイーツとスポーツを満喫
富海子ども会を開こう
富海活性化計画
海の雑貨屋さん
染物とハーブで地域を活性化
ひとのみちる場所TONOMICHI
藍の活性化――《藍》海辺のアニメ巡礼地
TONOMIマルシェ
とのみくすショップ
富海の地域おこし事業
樺峠越にカンバンを、
富海古銘家村（和風食堂・カフェ・宿泊・展示）
見晴台等の設置